

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4570600298		
法人名	医療法人社団慶城会		
事業所名	グループホーム 仰星台 1号館	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県日向市大字塩見10946-1		
自己評価作成日	平成26年6月25日	評価結果市町村受理日	平成26年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kainokansaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kanji=true&amp;ijiyosyoCd=4570600298-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kainokansaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kanji=true&amp;ijiyosyoCd=4570600298-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年7月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

(1号館)  
当ホームは自然豊かな高台に位置しており、近隣には同法人の関連施設があります。母体が医療機関でもあり、医療面でも連携が図れています。職員は、常に利用者様を家族として捉え、できる範囲で共に日常生活に関わって頂き、生きがいもてるように努めています。職員は、活気に満ちた笑顔のあるホーム作りを目標にしています。(2号館)「笑顔と挨拶」「目配り、気配り、心配り」を理念と掲げ、毎日一人ひとりに声掛けを行い、表情や顔色を確認しています。握手や肩もみと、体に触れることで、より身近に感じていただき、心身共に安心した生活ができるよう努めています。地域の方々にも「笑顔と挨拶」で、いろんな場面でホームを理解し、支援いただけるように働きかけています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

法人の母体である病院も地域の中にある、仰星台も地域住民にはなじみのホームである。運営推進会議の機能がしっかり働いており、地域密着型サービスとしてのホームの活動を支援している。1号館、2号館は隣接して建てられており、それぞれの管理者は、互いに切磋琢磨しながら資質の向上に努めている。また、代表者は、人材育成に力を入れており、研修会や勉強会を推進し、職員の資格取得を支援している。管理者も含め、職員にとって、意見や要望等を何でも言いやすい環境であることが、仕事への意欲となっている。職員は、理念をケアの指針と捉え、職員の笑顔が利用者の笑顔を導き出しており、理念の実践があらゆる場面で見られた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 0 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざすことも踏まえた理念の下に、行事等には地域の方々の参加を呼び掛け、交流を深めています。また、穏やかで安心した生活を送ることができるように、日々の中で話し合い実践につなげています。	それぞれのユニット独自の理念を職員全員で話し合い、ケアの指針として実践につなげている。ニーズの変化に沿った見直しも、適時に行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、清掃活動にも積極的に参加することで喜ばれています。また、ホームの行事には地域の方の協力を頂きながら、交流に努めています。	地域活動には積極的に参加し、ホームの行事にも七夕の竹をもらったり、夕涼み会には地域の方達から出し物の参加があるなど、日常的に交流を重ねている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二か月に一回の運営推進会議で、利用者様の状態や現状を報告し、認知症に対しての理解や接し方について伝えています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の現状や支援方法を報告し、会議メンバーからの意見や感想などを頂くことで、気づきが得られ、職員のモチベーションアップにつながっています。	運営推進委員としての役割を各委員は理解している。毎回活発な意見や提案、質問等が出され、職員会で話し合い、サービスの向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者より、文章(ファックス)メールで小まめな情報を頂き、感染対応など新しい情報が得られ、早急な対策をとることができています。また、不明な点等を相談し易く、心強い協働関係が築けています。	行政からは、様々な情報を提供してもらい、ケアの向上へとつながることが多い。また、ホームからの相談にも、納得のいくまで話し合いを持つなど、協力関係が構築されている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、拘束について認識を持ち、夜間以外は玄関を解放し、帰宅欲求の強い方は見守りと寄り添いで、身体拘束のないケアに取り組んでいます。	拘束についての勉強会を設けており、弊害を職員全員が理解している。利用者の行動は、一つ一つに理由があると捉え、抑制のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「何が虐待にあたるのか」を学ぶ機会を持ち、言葉づかいなど、職員の意識付けを行っています。また、研修参加後は勉強会で報告し、職員は自らを振り返り、気付きを得ています。			

宮崎県日向市 グループホーム仰星台1号館(一号館)

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ、該当する利用者様はおりません。研修会開催時は、学ぶ機会を設け、参加できるように努めています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書並びに契約書や個人情報の取り扱い等に対して、面接時に説明し、文章にて同意を頂いております。また、利用中の料金については、一覧表をお渡ししています。料金改定時の説明についても、分かり易い文章で説明し、同意書を頂いております。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族が意見・要望を表明し易い環境や雰囲気づくりに努め、面会時やケアプラン説明時などを利用して、ご意見を頂いております。意見・要望などがあった際は課題とし、定例会等で検討し、改善に努めています。		家族の来訪が多く、いつでも行きやすい環境が確立されている。普段の会話の中で情報提供を行うことで、家族からの意見の表出に努めている。ホーム便りでは、それぞれの利用者の状況報告をしており、それに対して家族からの返信もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見表明する機会を日常的に設けており、朝礼や定例会で議題とし、職員の気付きを大切にすることで、モチベーションアップにつなげています。		運営者や管理者は、いつでもどこでも職員の意見に耳を傾ける姿勢がある。利用者の誕生会を誕生日ごとに行ってはどうかとの職員の意見に、運営者から、それなら職員の誕生日祝いもしてみてもとの返事があり、職員の働く意欲につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、各資格取得を支援して職員のレベルアップに努めて下さり、達成度合いに応じて、正社員への転換、役職に昇進など、向上心をもって働けるような配慮がなされています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が、質を向上させていけるよう、研修の機会を設け、内容を定例会で報告することで、全ての職員が学びを得られるように努めています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北グループホーム協議会をはじめ、系列の管理者会議に参加することで、情報の共有を図り、サービス向上につなげています。			

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時に、ご家族様及び利用者様には、自然に何でもお話して頂けるような雰囲気づくりに努めています。センター方式B3を記入して頂き、利用者様の好きな事や馴染みの物を知ることで、安心して生活ができるように努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思っていることや要望等に耳を傾け、相談し易い雰囲気等を常に心がけ、信頼関係が築けるよう努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前情報やご家族、利用者様の要望をもとに、必要としている支援を見極め、安心して生活できるような環境や馴染みの関係づくりに努めています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様のできる事や興味のあることを知り、共に力を発揮して頂くことで、生活意欲の向上につなげています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月利用者様の生活の様子(写真)を文書で、状態や支援方法等細かに報告しています。また、面会時にも日々のご様子を報告し、必要な時は電話にて連絡も行っています。行事等には、ご家族も自由に参加して頂けるようお知らせし、参加頂いています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生会や行事の際は、慰問をお願いしたり、誕生会に参加して頂くなど、培ってきた関係が途切れないように努めています。	それぞれの利用者が築いてきた関係を重んじる姿勢がある。なじみの商店での買い物や知人、友人と会ったり、行きつけの美容院等、家族の協力の下、支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がよい関係を築けるよう、利用者様の趣味、得意分野を通してコミュニケーションが取れるように、職員が間に入り、時間や環境づくりに努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し退所になった場合においても、面会やご家族への情報収集で状態の把握に努め、今後の意向を、系列のワーカーに相談する等、必要に応じてフォローを行っています。事情があり、他の施設へと退所される方には、施設担当者へ情報書に看護サマリを添付して、詳しい情報提供に努めています。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族に協力して頂き、センター方式B3を活用することで、その人らしい暮らしへの支援(選択肢を増やした)に努めています。	目標達成の一つとして、1年間取り組んできた項目である。センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)の活用もその一つで、気分や状態の変化に対してその原因を探ることで、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人から暮らしの情報を得て生活歴を知り、介護計画や毎日の生活に取り入れられたり、本人の得意分野を生かしながらサービス支援に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートに利用者の心身の状態や気付き等を記載し、職員全員が把握できるように努めています。課題となることがあれば、定例会での議題とし、話し合いを行っています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回定例会の課題の中でケア会議を行い、個々の担当職員が現状を報告し、ご家族の面会時に会話の中から発せられた意向やアセスメントを踏まえ、介護計画を作成しています。	担当職員を中心に、モニタリング、再アセスメントを毎月実施している。家族の意向も加えた本人本位の計画書となっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカス記録の焦点に重視項目を記載することで、経てよみするだけでも、日々の様子が読み取れ、把握し易く、申し送りも簡潔にでき、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画に活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに応じて、ご家族の意向を尊重しながら課題を検討し、結果をご家族に報告後、同意を得て支援に繋がっています。			

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別ケアを重視し、希望時は図書館を利用する等、可能な限り、暮らしを楽しむことができるよう支援に努めています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族や利用者様が安心して頂けるよう、「何かいつもと違う」気付きを大切に、直ぐに看護師に報告する等、医師、看護師、介護士が連携し、適切な医療を受けられるよう支援に努めています。	ほとんどの利用者が、協力医をかかりつけ医としている。月2回の定期受診も、家族対応ができない時は職員が付き添い、支援している。急変時には、24時間連携ができる体制が確立されている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の状態を把握し、「いつもと違う」早い段階で状態変化や異常に気付き、看護師に報告し、医療に繋げていけるように努めています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に対し、情報の提供(サマリ)をし、入院中の経過や状態など、面会を兼ね情報を得て、主治医、ソーシャルワーカーを交え退所に向けた支援を行います。入院中、認知症の症状悪化により、医療機関で対応困難時は、系列の医療機関のソーシャルワーカーと連携を図り、転院等の対応を行います。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、施設の方針等を説明します。状態の変化に伴い、状態報告・ご家族の意向を確認し、同意書の作成を行います。当ホームでは看取りの経験があり、ご家族、主治医、ホーム職員との連携で寄り添い、穏やかな最期でした。終末期支援の在り方に、貴重な学びをさせて頂きました。	状態の変化に伴い、方針の共有に向けて、家族や主治医との話し合いを何度も持つようにしている。今回の看取りは、ホームへの家族の信頼が厚く、関係者全員が納得した支援であった。利用者職員全員で見守り、最期を見送った。	ホームの指針を示す文書や同意書も用意しているが、作成するのが状態の変化が現れた時期となっている。関係者の意向がずれないためにも、早い段階から同意書の活用を行い、方針を共有するための取組を期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会の参加や月一回の勉強会の議題として、誤嚥時等、緊急時の対応を学んでいます。また、緊急時の連絡方法等、周知しています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年三回の消防訓練を実施し、防災用品の備蓄も行っています。定例会では、訓練の一連の流れをシュミレーションし、身につけられるよう取り組んでいます。	様々な災害を想定した訓練を行っている。外部からの救助者のために、全介助が必要な利用者の居室のドアには、車いすの絵の描いた札が下げている。		

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライドやプライバシーを大切にすることをケアの基本と考え、職員はその方に合った声かけの工夫を話し合いながら、言葉かけや対応を行っています。	職員は、笑顔を絶やさないケアを心がけ、言葉かけも丁寧で、ゆっくりした対応をしている。特に、排せつケアにおいては、プライバシーに配慮した声かけ、声のトーンに気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間には、本人の好みの物を選んで頂いたり、誕生日には、プレゼントや好みの食事を提供する等、本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	センター方式B3を参考に、得意分野を生かしながら、一人ひとりのペースを大切に、その人に合った暮らしができるように努めています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お顔の手入れや髪型を整えるなど、気分がリフレッシュできるように支援しています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は畑の野菜を収穫し、調理はできる範囲で利用者と職員と一緒にしています。雰囲気を変え、玄関ポーチで職員と食事をしたり、外食支援も行っています。誕生日は誕生日の当日に行い、希望の食事を皆で作り、お祝いしています。	職員は、利用者それぞれの残存機能をしっかり引き出しており、料理が好きな利用者は自ら進んで台所に立ち、一緒に調理や盛りつけをしている。職員は、介助の必要な利用者にも介助しながら、共に食事をし、食事を楽しめるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックや体重管理を行い、嚥下状態の悪い方や義歯のない方は、食事形態を工夫しています。水分補給には好みの飲み物を提供し、水分不足の知識や意識を持って、排尿の回数や色の観察を行っています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前、紅茶でうがいをを行い、夕食後は歯磨きやうがい等で清潔保持に努めています。義歯の不具合時は、ご家族と相談し、受診をして頂くなど支援に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンの把握を行い、また、自立した排泄ができるように、声掛けや誘導をし、可能な限り気持ちよくトイレで排泄ができるように支援しています。	排泄チェック表を基に、時間ごとに声かけをし、トイレ誘導をしている。尿取りパットの調整をすることで、自立へとつながるよう取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて排便の状態を確認しています。水分や繊維の多いものを提供し、腹部マッサージなども取り入れ、自然排便ができるように努めています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂は毎日沸かしています。皮膚の状態や体調に合わせ、ゆっくりと気持ちよく入浴できるように、個々にあった支援をしています。	入浴時間帯は、職員の多い昼間に設定し、隔日ごとの入浴としているが、希望があれば毎日でも支援できる体制となっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを把握し、昼寝をされる方、テレビや読書をし睡眠をとる方等、生活習慣に合わせて、自然なリズムで睡眠や休息がとれるように支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の効用、副作用などを把握し、変化があった場合は直ぐに看護師に報告しています。飲み忘れのないように薬包に日付を書いたり、同姓の方の薬包には赤線を引き、確認の意識付けを行うことで、誤薬防止に努めています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式B3を活用し、趣味や得意分野を提供することで、自分らしく楽しめる生活ができるように努めています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ屋外に出る支援をしています。畑の作物の収穫や玄関ポーチで食事をしたり、職員を増員して、外食やドライブにも出かけられるようにしています。	隣接する1号館・2号館での行き来は、日常的に行われている。図書館に行く利用者もあり、時には昼食を外食にすることもある。利用者の状態や習慣に合わせた支援に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際は、希望に応じて買いたいものを選んで頂いています。現在、ご家族からの預かり金はなくし、施設立て替えて購入していただき、ご請求時にお支払いをお願いします。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話の希望があれば、時間帯を考慮し、支援をしています。季節の挨拶状などもやり取りができるように、個別に支援しています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気をつくる為にも、季節を感じる飾り付けや行事などの写真を掲示し、季節の花を庭で摘み、心地よい生活ができるように努めています。	台所が広間と一体となった造りとなっており、利用者は手伝いに入ったり、調理をしている職員に話しかけたり、自由に過ごしている。廊下や広間の壁面には、利用者の日常や外出時の写真が貼ってあり、来訪者との話題作りの一環となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やレク活動など、交流の図れる場を提供し、ホーム内は皆でくつろげるよう、大型TV、カラオケを設置し、ソファで囲み、談話のし易い共同空間にしています。食卓は定位置にはせず、その時々気の合う関係者が座れるように努めています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が、心地よく過ごせるような馴染みの家具や食器類、電気製品、仏壇などを本人とご家族が選び、持ち込んで頂いています。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を活用し、また、家族の協力も得ながら利用者の個性を生かし、それぞれが異なった雰囲気の居室となっている。生活用品のほとんどが家から持ち込まれた物で、落ち着いて過ごせる工夫がなされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は手摺を設置し、安全に生活ができ、身体機能が維持できるように工夫しています。ホーム内は段差がなく、歩行時に身体に負担を掛けないような環境作りをしています。			